

## 両白山地 三方崩山

◎日 程：2016年10月10日（土） ◎メンバー：Yaza（L）、Kane

再び面？白山地へ向かう。三方崩山、ガイドブックには【標高は2,000m そこそこだが、気軽なハイキング感覚の山ではない。日本アルプスに準ずる中級山岳のひとつと考えた方がよい】としてあった。

東海北陸自動車道ができたおかげで、白山を始めとするこの地域の山が近くなった。東海北陸道を荘川I.C.で下りて国道158号線を北に向かう。荘川桜で名の知れた御母衣湖畔を白川郷方面に向かう。

道路の左側に今夏に登った白山の平瀬登山口への道路の交差点があり、そこを越すとまもなく右側に道の駅「飛騨白山」が現れる。今日はここで車中泊だ。

起床し朝食を簡単に済ませ山の準備をして、5時20分ヘッドランプを点して道の駅を後にした。登山口は国道の反対側にある。道路を横切り林道に入る。広い林道を高度を上げながら進む。30分程歩くと林道終点である。そこに車5台程止められる広場があった。「ワシの車は4WDだでここまで入れたなあ。」と呟く。

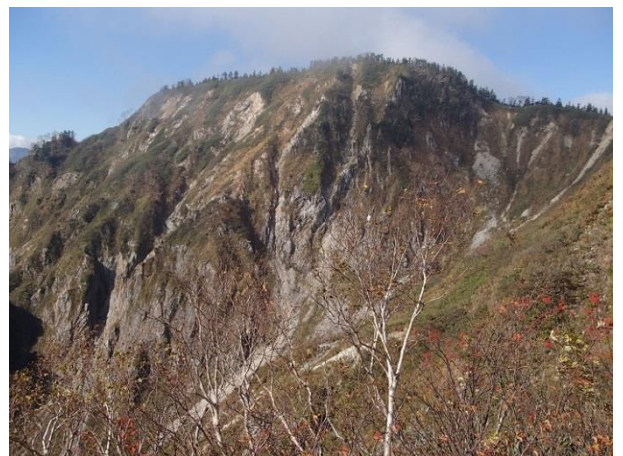
いきなり急坂の山道に入る。まあ休まずゆっくり歩めばいいだろうと思う。辺り一面ブナ林である。

「白山はブナ王国だったけどここはブナ帝国。」とKaneさんに言う。そう、ここには品の良いと思われるブナが、天に向かってたくさん伸びている。

きょうはそのブナ林はガスに覆われている。急坂を登り平らな所に出て良いペースで歩いていたが、やがて目の前にさらなる急坂が待っていた。ペースを落としブナで囲まれた山道を、休まず足を運ぶ。平らな所に着き、そこは展望が開け三方崩山が望める。

ブナ林のガスを抜けたようで、下を見ると雲海があり、天を見るとすばらしい青空が広がっている。そこからも急坂が続いていたが岳樺の紅葉が秋を思わせる。一步一步急坂を登り山頂に近づく。急坂を登り切っても次なる緊張があった。

ヤセ尾根だ。緊張しながらも下に雲海、天はすばらしい青空、天と地の間を歩いている。歩くこと4時間で2,059mの山頂に着いた。



（三方崩山）

風もなく穏やかな山頂で昼食をしながら30程いた。下山の際にガスが湧き始め、そ

れが思いがけないプレゼントをしてくれた。ガレ場を通過している時にそこを覗きこむと、なんとそこにブロッケンがあった。ブロッケンに遭うのは久しぶりだった。Kaneさんに「おお早くこっちに來い。イイもんがある」と声をかけた。秋空の中、往路を戻った。



この三方崩山の標高は 2,059m、登山口の標高は 620m、標高差 1,440mである。ほとんど上りであった。そこで計算。上り4時間。では1時間辺りどれだけ上がったのか？ $1440 \div 4 = 350\text{m}$ 、1分にすると6m、そしてそれを1秒にすると10cm。この数字どう？

《記録》

5：20 道の駅発→5：55 林道終点→9：20 三方崩山着→9：55 三方崩山発→  
12：25 道の駅